

前へ

豊中ラグビースクールに入校したのは、平成13年(2001)。周りは男の子だらけでした。練習は毎週日曜日の午前中。少しでも妥協したり声が小さかったりした時はコーチから怒られました。当時はものすごく怖かったのですが、大人になってからその大切さがよく分かりました。ラグビーは痛くて苦しくて、途中で辞めたくなることも多かったけれど、最終学年の中学3年生までお世話になりました。練習後にコーチやチームメイトと服部緑地でバーベキューをしたり、二ノ切池公園の大きな石の滑り台が大好きでズボンが破れるまで滑ったりしたことも思い出です。練習中以外にもコーチから挨拶や礼儀、仲間を大切にすることなど、人として大事なことを沢山教わりました。

私は現在も追手門学院大学の女子ラグビー部でラグビーを続け、2020年の東京オリンピック出場をめざしています。女子だけで



福島 わさな

◎ラグビー選手

吹田市出身。6歳から15歳まで豊中ラグビースクールに所属。現在、追手門学院大学(茨木市)3年生。ラグビー女子7人制「サクラセブンス」女子セブンスの元日本代表。平成28年(2016)に太陽生命ウィメンズセブンスシリーズで年間得点王と年間最優秀選手賞を受賞。

芝のグラウンドで目標を持って毎日ラグビーができる。そんなことは数年前にはあり得ませんでした。夢でした。今の環境を当たり前だと思ってしまうたらいけない。どんなに素晴らしい環境にいても、幼い頃にコーチから教わった人として大切なことを大事にしていきたいと思っています。

昔、あるコーチから「前へ」という言葉をいただいたことがあります。その時はよく分からなかったけれど、大学生になって大きな挫折をした時でもただ前を向いている自分がいきました。下を向いていても前には進めない。少し下がってもすぐに前を向かないとトライはできないと思えました。

私の原点、豊中ラグビースクール。いつかラグビーで恩返しをしたいです。そして豊中ラグビースクールの女の子たちが、私のようにならずとラグビーを続けてくれることを願っています。